

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年 6月4日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670900150
法人名	医療法人 慈和会 大口病院
事業所名	大口病院 グループホームつどい
所在地	鹿児島県伊佐市大口大田124-3番地 (電話) 0995-23-0820
自己評価作成日	平成27年2月23日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/46/index.php
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉21かごしま
所在地	鹿児島市真砂町54番15号
訪問調査日	平成27年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症治療病棟、重度認知症患者デイケアを有する精神科病院を母体とする医療法人によって開設されたグループホームです。夜勤は病院看護職員が行っており、緊急時に病院で対応出来るほか、重度認知症患者デイケアの利用で専門職によるリハビリを継続できます。

広い敷地内には生活訓練施設、自立支援グループホーム、就労支援施設、カフェレストランもあります。就労支援の一環である有機農園、パン工房、鶏舎から入手した新鮮で体に優しい食材をつどいでも毎日提供しています。又つどいの前の畑でも野菜作りを楽しみ、献立の一部になります。鶏舎には隣接する保育園の園児達が遊びに来て交流する機会もあります。

季節を感じてもらうために季節行事を大切にするとともに、入居者の方々が安心して穏やかな生活を送ることが出来るよう心掛けています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

○伊佐市大口の国道沿いに精神科病院を母体とする医療法人によって開設されたグループホームで、月4回の主治医、内科医による訪問診療と夜勤帯の看護師配置により緊急時の早期治療の支援が適切に図られ、利用者、家族にとって医療面での大きな安心となっている。終末期に関する指針も作成されており、医療体制の支援が整えば看取りの対応が出来る施設状況である。

○施設周辺には有機農園やパン工房、鶏舎があり、新鮮な野菜や卵、朝食用の出来立て手作りのパンが提供され、利用者の楽しみとなっている。また、法人経営のカフェレストランでの外食や個人商店・コンビニへの買い物等、日常的な外出機会も多い。ボランティアによる体操教室や地域の夏祭りや母体法人の運動会、年2回行われる家族会や家族ノートの活用等、馴染みの場所や人との関係継続にも努めながら、地域社会との交流や絆を深めている。

○年5回以上のグループホーム及び母体医療法人の防災訓練により消防・警察・病院・施設との連携が構築・整備されている。また、職員も消防設備に関する正しい使用方法を身につけ・救急救命に関する講習を受ける事で、防災・救急対応に関するスキルアップにつなげている。今後は、さらに地域住民との防災の連携を図って欲しい。

○管理者と職員は、個人情報保護や認知症ケアに関する研修、接遇チェックリストによる自己評価等を行い、プライバシーと人権を尊重・配慮した接遇・サービス提供に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	方言を用いた独自の理念を掲げ、ホールリビングやスタッフ室に掲示し、つどい会議時、声に出しスタッフで確認している。	「共に語らい共に笑い にくいことも できんことも 一緒に寄り添い尊厳を忘れず 地域と共に支えながら絆を深めていきます」と方言を用いた地域密着型サービスの意義を踏まえた独自の理念を事務所内やホールに掲げている。月1回の職員会議やミーティングで意義を振り返り、日々のケアへの反映に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会の加入、当病院運動会での地域の方々との交流、ボランティアの方々からの訪問を受けている。高校生の研修の受け入れ交流もある。保育園児や近所の商店等との交流がある。	自治会に加入し、日常的に保育園児や商店街の人々と交流している。高校生の職場体験や研修の受け入れ、毎月1回ボランティアによる体操教室のほか、母体病院の運動会への地域住民参加等、事業所が理念に掲げている「地域と共に支えながら絆を深める」に沿って、積極的に交流を図っている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	保育園児と病院グランド等での交流や花見・紅葉狩り等外出、又散歩の際、地域の方との挨拶を交わしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催している。利用者状況、ホームの行事・活動内容、ヒヤリハット・事故報告、取り組み等を報告し、意見交換を行いホームのサービス向上に努めている。	2ヶ月毎に自治会長、市役所、民生委員、地域包括支援センター、利用者、家族代表の参加にて開催し、事業所より利用者状況報告及び活動報告やインシデント・アクシデント報告等を行っている。行政からは平成27年度介護保険改正に伴う報酬改定の報告、自治会からはインフルエンザによる面会制限に関する質問等、積極的な意見交換が行われている。会議で議題となったオムツの種類変更について職員会議を行い、改善へ向け取り組んだ事例もあり、より質の高いサービスの提供に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	地域密着サービス連絡協議会に参加し、研修やホームのサービス状況の取り組み等報告し、意見交換を行っている。	行政の担当者には運営推進会議へ参加頂くとともに、介護保険申請時や2ヶ月に1回行われる地域密着型サービス連絡協議会への参加の折にサービス提供に関する相談や助言等、積極的に連携を図り協力支援体制を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	玄関へは施錠せず利用者の居場所確認をスタッフで声掛け申し送る。又随時、拘束にあたらないかをスタッフで確認している。外に出ることを止める事でストレスにならないように随時、散歩を行ったり等気分転換を図っている。	玄関・居室の施錠は行わず、言葉による拘束やベットの4点柵の使用等を含め、サービス提供に関わる全職員が身体拘束をしないケアについて、マニュアルによる安心・安全なサービス提供に努め、勉強会や研修会での正しい理解とスキルアップに取り組んでいる。身体拘束をしないケアにより、利用者自身の日常生活をより有意義に過ごしてもらえるように努力を重ねている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や新聞TV等から虐待について学び確認している。何気なく利用者に言った一言でも虐待に当たらないか、傷ついていないか、言葉の暴力にならないかを常にスタッフ間で気を付けるように話しをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	現在、対象者となる方はおられないが、成年後見制度について研修を受けているので必要な時が出てきた場合は支援していきたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時は、本人・代理人のご家族へ契約書・重要事項の説明、個人情報保護、利用料金等の説明を行い、同意を得て署名押印を頂いている。又退居時は、ご家族へ説明を行い、理解納得を得て転居先への相談・支援をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	面会時、サービス担当者会議、又運営推進会議等で意見や要望を伺い、スタッフ間で共有・話し合っている。	日常生活における利用者への気づきや運営推進会議時での意見、サービス担当者会議での要望のほか、面会や年2回の家族会でサービスに関する意向等の把握に努めている。連絡帳や支援経過記録を生かしながら職員会議等で課題を検討し、意見を反映させて業務改善を図っている。また、遠方にいる家族等には、ホーム便りや身体状況報告書を郵送し、来訪時は個別化した家族ノートを開覧して頂き現状を報告している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	会議・ミーティング、申し送り等で出た意見をスタッフ間で確認し、要望等は代表者に出している。	職員会議や申し送り並びにサービス提供時等、運営に関する職員からの意見や提案を聞く機会が多く、意見を言いやすい職場環境作りに努めている。勤務変更や個別の相談についても、休憩時間等を利用して行っている。運営に関する職員の意見を反映させる事で、円滑な業務遂行とサービスの質の向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	資格取得の支援と職員間の交流・気分転換が図れるように新年会・歓迎会等を毎年、開催している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>代表者は、職員の知識向上、勉強のために、法人内・外部研修への参加を積極的に勧めている。外部研修後は、ホーム内の勉強会で報告・意見交換を行い、職員の知識・ケアの向上に役立てている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>連絡協議会へ加入し、研修・事例検討会・講演会等へ参加し、同業者との交流・情報交換を行い、ケアや取り組みに活用している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入所相談時、まず本人にホーム内の施設見学をして頂き、緊張せずゆったりとした雰囲気話しが聞けるような雰囲気作りに努めている。又そこで納得してから、日中のお試しや1泊2日の体験利用をして頂くようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>施設見学や入所前の話し合い・情報収集を行う。ご家族より要望等伺い、どういう支援が必要かニーズ等を関係者で検討する。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ホームの生活状況を見てもらい、本人家族が不安に思っている事等伺い、その方のニーズの把握に努める。今後、必要とした場合の支援については、本人・家族に確認している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>利用者の方より昔の話や生活の習わし等伺い、日々の生活や行事の際に取り入れたりしている。利用者スタッフ間で感謝の言葉が自然と出るような関係作りに努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時、本人とゆっくりお部屋で過ごして頂く。その際、日々の様子や健康状態も報告するようにしている。又「家族ノート」に書き留めた日々の記録に目を通してもらい情報の共有を行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人・ご近所等の面会や入所前から利用していた認知デイケアも継続利用している。	利用者の生活歴や家族背景、社会との関係等の把握に努め、情報等を集約したアセスメントにより本人の人生でのなじみの場所や人物との関係性が継続できるよう支援している。知人・友人の面会や墓参り、法事、近所の個人商店への買い物外出による交流のほか、家族との外食や孫・子供達の写真等を飾るなど、これまでのつながりを感じさせる取り組みを行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の円滑な関係作りのためにスタッフが会話の橋渡しをしたりする。レク参加は全員参加以外に小グループや個人で、各自の好み合った物をおしゃべりしながら行っている。口腔体操時等声を出す事で会話の機会や頭の体操にもなり皆さんで楽しみながら参加出来ている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院されたら入院中面会に伺い病院関係者に状態や様子を確認したり、又家族と連絡を取り合い情報共有を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	認知症で自分の意思表示ができなかったりするが、日常の関わりや何気ない言葉・表情から、その方の思いや真意を感じ取るように努めている。又その事は介護支援経過記録に記載するようにしている。	利用者の日常生活の中からの思いや意向の把握に努めている。意思疎通が困難な場合でも家族の協力も得て、出来る限り連絡帳や支援経過記録等を生かして、職員会議やサービス担当者会議で意見交換を行い、本人の意図するサービス提供となるように取り組んでいる。また入所前よりお試し期間を設けることで、信頼関係を育み本人の思いの理解に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人・ご家族や病院等から生活歴や趣味等聞き取りアセスメントし、その人らしい生活や望む生活が送れるよう支援している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各自の生活のペースやリズムを大事にし、日常の様子観察・把握を行います。できる事についてはなるべく自分でして頂けるよう自立支援に努め、又できるお手伝いをして頂くことで生き甲斐作りにつなげています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の意向を伺い、スタッフや関係者から情報収集し、その方のニーズを割り出し、実現していく優先順位を本人家族、関係者で確認し決めている。月1回評価を行っている。	本人・家族の意向を踏まえ、職員相互の意見や医師からの医療連携、看護スタッフからの指導・助言等、関係者がチームとなり、介護計画作成者は情報を総括し、より現状に即したケアプランとなるよう月1回モニタリングを行っている。特に認知症の変化に沿った課題分析を行うと共に、目標達成に向けた質の高いサービス提供が実現・実践出来るように努めている。身体状況の変化があればサービス担当者会議をその都度行い、ケアプランの見直しを行っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別の介護支援経過記録に、日常の様子、心身状態、本人が発した言葉は、なるべくそのまま記録し、スタッフ間で情報共有を行う。又変化や見直しが必要な場合は、その都度、スタッフ間で確認している。経過記録はケアプランに添った記録を付けるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>遠方におられるご家族や通院への付添が困難と思われるご家族については、必要に応じて通院付添、送迎等の支援している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の自治会長・民生委員参加の運営推進会議への出席や地域の運動会・敬老会での保育園児との交流があり楽しまれている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>月2回医師の訪問診察がある。利用者の大半は母体病院からの患者さんであり受診はスタッフが付き添う。それ以外の他科受診については、基本は家族の付添であるが、家族の付添が困難な時は通院に付き添っている。夜間帯は、母体病院からの看護師等が夜勤を行っているので状態の変化にも対応できている。</p>	<p>本人・家族の希望によるかかりつけ医への受診を家族と協力しながら支援している。入所者の8割が母体病院からの紹介入所で、月2回ずつ主治医と内科担当医による訪問診療が実施されている。日中の看護スタッフを通じて医療連携と情報を共有し、職員全員が連携を図り適切な医療が提供出来るように支援している。夜間・深夜帯については、母体病院の看護師が夜勤を行うことで、緊急時の早期発見や治療が迅速に行われ、利用者・家族に安心感を与えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>受診以外に週1回利用者の状態報告を病院へ行っている。夜勤は母体病院からの看護師等が夜勤を行っているので、健康管理や状態の変化にも対応できている。母体病院の受診の際、看護師への連絡報告の際、相談にも応じてもらっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院した際、病院への情報提供や面会を行っている。又その際、病院スタッフから情報収集・交換も行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度化や終末期の対応は、契約時に説明し、同意を得ている。今後、利用者の身体状況に応じて、本人・家族、医師・スタッフ間で話し合い連携をとりながら支援に取り組めるよう対応している。</p>	<p>重度化や終末期に向けた対応については、事業所指針を契約時に説明し、同意を得ている。身体状況に変化があれば、主治医からの病状説明後、本人・家族の意向や希望を踏まえた上で今後のケアの方針を関係者で話し合っている。事業所で出来る最大限のサービス提供の実現に向け、主治医をはじめとするすべての関係者がチームとなり適切な医療・看護・介護の支援に努めている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>急変・事故発生時の対応・手当について研修を受け、又消防の研修でも心肺蘇生法・AEDの使用方法についても学び、他のスタッフにも報告し、伝達している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>消防署の立ち会い協力のもと、防災訓練年2回実施し、通報・避難訓練、消火器の取り扱い使用方法学んでいる。又母体病院の防災訓練にも参加し、協力体制ができている。</p>	<p>年2回の消防署立会いのホームの防災訓練と年3回の母体病院での防災訓練に参加している。自動通報装置による通報の流れや避難経路・避難場所の確認、利用者の誘導方法や消火器使用による初期消火の対応等、消防設備の取扱い方法を全職員が身につけられるようにしている。救急救命に関するAEDの研修や消防計画のマニュアルの見直しを行う事で、あらゆる有事に対応できるよう取り組んでいる。また、スプリンクラーの設置や懐中電灯等の備品や米・水・缶詰等の備蓄も十分な状況である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇の勉強会でプライバシーについて話し合う。接遇チェックリストの作成、年2回自己評価を行い、プライバシーや自尊心を大事にした対応や声掛けを行うようスタッフ間で心掛けている。	利用者の尊厳とプライバシーを尊重したサービス提供が実践出来るよう、接遇や認知症ケア、個人情報保護法に関する勉強会や研修に参加する等、職員一人一人のスキルアップに努めている。声かけや支援に対する課題については、職員会議や申し送り時に職員で意見交換して改善を図り、利用者の人権を尊重した安心かつ満足できる施設環境の提供に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の状態に応じたコミュニケーション方法で支援している。言葉以外に表情や態度から思いや願い等を確認し、利用者の立場に立った支援をするよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの1日の生活の流れはあるが、本人の体調や状態に応じて横になりたい時はベッドで過ごしたりし、本人が過ごしたいようにしてもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人ができる身だしなみは、自分で行ってもらっている。服やスカーフ等の装飾品も本人の好みに任せている。又認知ケアで月1回ビューティサロンでお化粧や顔のマッサージも行っている。散髪は美容院の方に来てもらい本人の好みを聞きかたしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人敷地内に農園・パン工房・鶏舎があり新鮮で安全な食材を提供している。季節事の行事食、外食や出前を取ったり好みを聞いたり、又誕生日には手作りケーキや本人の好きな物を提供している。お手伝いのできる方について、片付け等お願いしている。	母体法人に農園、鶏舎、パン工房、カフェがあり、季節の野菜と新鮮な卵のほか、毎日の朝食に出来立てのパンの提供等、利用者の希望に沿った食事メニューを食事形態や栄養バランスを考えながら安心・安全に提供している。食事の準備や後片付け、時には外食や行事食での刺身やバイキング料理、誕生日の手作りケーキ等、利用者と家族・職員が協力して食事がより楽しくなるような支援に取り組んでいる。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は、毎日、チェックし、バランスのよい献立作りに努めている。又水分量が足りない方は、味噌汁やポカ等が必要な水分が摂れるよう対応している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前後のうがいの声掛けや個別に誘導し見守り介助を行っている。夕食後は義歯洗浄し、入れ歯洗浄剤を使用している。昼食前、口腔体操を行っている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定時のトイレ誘導や1人ひとりの排泄パターンを把握し、定時、又随時、トイレ誘導を行っている。夜間、尿取りパット使用の方も日中はトイレ誘導を行っている。	排泄リズムや生活パターンを把握し、昼夜を問わずオムツ使用を軽減できるようトイレ誘導を中心とした自立支援に取り組んでいる。失禁者に対する声かけや対応については自尊心やプライバシーに配慮し、排尿・排便コントロールについては排泄チェック表で確認し、ヨーグルトの活用で医療処置に頼らない自然排泄を促す取り組みを行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の野菜・果物・ヨーグルト等を取り入れたり、歩行運動やラジオ体操で排便を促すようにしている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している</p>	<p>基本週3回の入浴であるが、利用者の体調や失禁等、又冬場は風邪等感染症も考慮しながら入浴を実施している。</p>	<p>利用者の身体状況を確認しながら、プライバシーの配慮と自尊心を傷つけないよう、週3回の安心・安全な入浴介助に努めている。希望する入浴時間があれば対応出来るように支援している。また、軟膏塗布や足浴、清拭等の対応や入浴剤やゆず湯等、入浴を楽しめる工夫もしている。</p>		
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している</p>	<p>お昼寝は本人に確認し、希望に応じて実施している。又無理に昼寝は勧めない。夜間、入床時間は本人に任せておりTVを観たい方には観て頂いている。無理に部屋に連れていったりはしない。</p>			
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>個人の内服薬をファイルし、随時、確認しながら服薬管理を行っている。状態の変化により、服薬が変更調整された場合は、記録し、スタッフで申し送り確認している。</p>			
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>各自の得意分野を伺いながら、又1人ひとりに応じた家事やお手伝いをお願いしたりしている。昔、作っていた味噌作り、梅干し作り、ソバ打ち等、昔話をしながら各自の作り方等伺いながら一緒に行っている。</p>			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	利用者の希望に応じて、スタッフと一緒に近くのコンビニや当法人施設パン屋に散歩も兼ねて買い物に出掛けたりしている。近くのレストランまでランチ外食も行っている。	馴染みの個人商店やコンビニでの買い物、法人内のパン工房への散歩やカフェレストランでのランチ外食のほか、ソーメン流しや花見、墓参り、一時帰宅等、利用者の希望に沿った外出支援が日常的に提供出来るよう、家族と協力し取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	スーパーへの買い物外出や近所のコンビニ等への買い物・外食時等、支払いのできる利用者には、本人にお金を渡して買い物を楽しんでもらう。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	遠方の家族と電話で話したり、手紙の書ける方には、手紙（年賀状も）支援も行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールリビングから台所が見えスタッフが作る食事の匂いをかいだり、又台所に目をやりながら「今日のご飯はなんやろか」「お腹がすいた」と言われる。テーブルには季節の花を置く事もある。廊下の壁には、行事の写真や作品を掲示している。又リビングホールには加湿器を置き空気の乾燥にも気を付けている。	玄関は手すりとスロープが設置され、安全な移動が確保でき、リビングからウッドデッキへの出入りが可能で、日光浴やお茶が楽しめる憩いの場となっている。カウンター式キッチンからは利用者の様子が確認できて安心感を与え、リビングには加湿器と空気清浄機を置き、湿度・気温に配慮している。木をふんだんに利用した共用空間は安らぎを与え、壁には季節感のある飾りつけや作品の展示・掲示がされている。ソファでくつろいだり、居室で休まったり、自分の生活スタイルに合わせて居心地よく過ごせるように努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>廊下にソファや椅子を置き自由に使ってもらっている。又天気の良い日は、ウッドデッキに出て日光浴を行っている。又ホールリビングには、仏壇を置き、いつでも各自が拝んだりできるようにしている。</p>			
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>写真・塗り絵カレンダー・活動で作った作品・ぬいぐるみ・本人の好まれる物を部屋の壁やタンスの上に飾っている。</p>	<p>収納タンス、モーター式の低床ベット、冷暖房が完備されている。寝具や家族写真のほか、創作活動作品の掲示など、利用者の趣味・嗜好を生かした居室の飾りつけを行っている。家族と一緒になじみの使い慣れた品物をレイアウトする事で利用者が居心地よく過ごせるよう支援している。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下は歩行に妨げにならないように、ソファや椅子以外の物は置かないようにしている。居室内には備え付けのタンスを置いてあり、更衣ができる方には、毎朝、自分下着交換を行ったり、洗濯物を畳んでタンスにしまうまでして頂いている。</p>			

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない